



佐野市立城東中学校で農業者による講話を実施 【農業への理解促進みのりす】

令和2(2020)年12月3日
安足農業振興事務所

12月3日、佐野市立城東中学校の学校行事「職業講話」と連携し、第2学年生徒(109名)を対象に、農業の理解促進、将来の職業選択等について講話を行いました。

- ・講師は、里山農園やぎファーム 代表 青柳貴紀氏にお願いし、「農業はどんな仕事？」という演題で、実際に行っている仕事の内容、職業観、若い人に伝えたいことについて、樹木の販売会社、本屋の店長を経て農業に転職した経緯等も交えて講話をしていただきました。

【講話内容】

- ・東日本大震災の時、「今後どうなるか分からない。今、楽しいこと、面白そうなことをやろう」と思い、植物への興味や販売経験を踏まえ、自由に楽しそうだった農業の道を選んだ。現在、20種類以上の野菜や米、タケノコ、果物を作っている。また、農作業、キャンプ、バーベキューなどの体験を行っている。今日の話で農業に対するイメージが変わればと思っている。
- ・農業は、自分で考え、自分で行動し、好きな時に作るという働き方ができるので楽しい。
- ・ただし、自由であれば、責任が伴う。台風や大雪でハウスが潰れたり、虫の被害で不作になったり、農作物が売れないときなどは、全て自分が責任を負わなければならない。サラリーマンは、自由を制限されるが責任は会社が負ってくれる。どちらが良いかは個人個人の考え。
- ・農業をするには、生物、化学、物理、経済、販売接客、土地に関する法制度など、色々な勉強をすることが必要だが、多すぎて事前に勉強することは難しい。その時々をやってみるしかない。自分で考えて、決めて、間違えればやり直す。この流れは、勉強と同じ。つまらないかもしれないが、今、勉強をしっかりとってほしい。
- ・自分が好きなことをやってほしい。分からなければ周りの人に相談してほしい。色々試してみると、どういうものが好きか、なんとなく分かってくる。好きなことを見つけてほしい。
など

- ・生徒から「仕事のやりがいは?」、「つらいことは?」、「かぶをうまく作る方法は?」、「害虫駆除の方法は?」など、生徒も農業を身近なものとして興味を持ったようでした。
- ・今回の話が生徒達が将来の職業を選択する際の参考になればと思っています。

